

弔辞

チーキ、あなたに初めて会ったのは2011年、震災の年の4月でした。15年ぶりに私が多摩に戻ってくると顔なじみだったアコ、マコ、そしてあなたが迎えてくれました。アコ達は私を覚えていてくれたので、懐かしさがあったのですが、初対面のあなたは野生の雰囲気を漂わせていて緊張したことを思い出します。

あなたは、1976年に生まれ、1999年、当時多摩にいた♂のタマオの繁殖相手として多摩動物公園にやってきました。その前はというと、1979年に南アフリカ共和国から九州自然動物公園へ、さらに1980年に富士サファリパークへと移動していました。いくつもの施設を移動し、たくさんのゾウ達と関係を作ってきたあなたの経験は、多摩のアフリカゾウの群れ作りでも発揮されました。残念ながら、タマオとの間に繁殖は有りませんでした。他の個体が産んだ子ゾウの面倒を丁寧に見る、良き乳母として大きな存在感がありました。

多摩の繁殖一頭目のパオの時には親子分けしたパオの夜の寂しさを支えてくれました。

二頭目のマオの時にはマオ親子の他個体との初同居の相手となり、マオの優しい遊び相手になるとともに、母親アイの育児疲れを癒してくれました。

そして2012年に砥部動物園から3歳半で来園した砥夢にとっても優しい乳母になりました。砥夢の受け入れを決断できたのはあなたがいてくれたからなんです。

多摩で生きてきたアフリカゾウ全ての個体と暮らした経験を持ち、決して活発ではなかったけれど、群れの仲間と過ごすことが好きで、それでいて群れのルールには厳しく、エサを横取りした場合などには厳しく躰をしてくれました。多摩の群れが変化していく中で、それぞれの個体を繋ぎ合わせる大事な存在でした。

あなたと接して感じたことは、自分で考えて行動をしているな、ということでした。動物園のゾウは人間の指示で動くことに慣れていて、あまり逆らわない個体があります。おどおど行動する個体もあります。また、指示に反抗的な個体もあります。ところが、あなたは係員が何をさせようとしているのか、それは、自分にとって大丈夫なことなのか、ということを考え、納得すれば応じる、納得できなければ、断固として応じないという意思を確立しているように思えました。それはつまり、我々がいかあなたと良好な関係を作り、さらに的確に意思を伝えられるかにかかっているため、あなたとコミュニケーションをとることは難しくもあり、楽しいものでした。ターゲットトレーニングを初めて行った時にはターゲット棒を受け入れるまでに3か月かかったそうですね。

我慢強さ、弱みを見せないことにも野生を強く感じさせました。

2016年2月の終わり頃、口の中に炎症が起こりはじめ、5月には部屋に戻らなくなることがありました。連続7日間入らない日々が続き、痛みに耐えるように放飼場の端でじっとしていました。我々も泊まり込みで見守り、口の周辺に問題があるのだろうと考え治療を続けました。その後、口の中から骨の欠片のようなものが出てきて、徐々に回復していったのですが、のちに調べたところ、それはまさに顎の骨の一部でした。我々もまさかと思っていたのですが、死後解剖したところ、顎の骨が折れていたことが判明しました。あなたは顎の骨が折れていたにもかかわらず、痛みをひたすら耐え、少しずつでも食べられるものを食べ、回復していたのですね。

そんなあなたも晩年は、四肢の関節の痛みにより横になって休むことができなくなり、やがて歩行が困難になりました。それでも、壁に寄りかかり、少しでも楽な姿勢を見つけながら頑張る姿に強さを感じました。そんな時、あなたは我々飼育係に何とかしてくれという様子が身体を寄せてくることがありました。あの我慢強いあなたが人を頼ってくるなんて。我々もあなたの辛さを少しでも助けられるように努力しましたが、とうとう回復させてあげることができませんでした。

やや太めで丸っこい独特の姿は来園者に人気で多くのファンがいました。晩年は闘病のため少しやせてしまいましたが、今は痛みからも解放されてモリモリ食べて静かに過ごしてほしいと願っています。これからもアコや砥夢たちに寄り添って見守ってあげてください。

多摩動物公園 北園飼育展示係 木崎恒男